

## 【2023年12月 月間予定表 — 槻辻北校 —】



12月の予定	
1	金
2	土 <b>「土曜特訓⑧」</b> (中3対象 in 槻辻北校)
3	日
4	月
5	火
6	水
7	木 休校日
8	金
9	土 <b>「土曜特訓⑨」</b> (中3対象 in 槻辻北校)
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木 休校日
15	金
16	土 休校日
17	日
18	月
19	火
20	水
21	木 休校日
22	金 <b>「冬期講習」開始</b>
23	土
24	日
25	月
26	火 休校日
27	水
28	木
29	金
30	土 休校日
31	日 休校日

※諸事情により予定を一部変更する場合があります。

## 【10月度のMVP】

## ●中1 Y.T. くん

第1回からの定期テスト得点の安定感を評価しました。すべて420点オーバー！

## ●中3 H.M. さん

第4回V模試の英語において、偏差値が70！これはなかなかできるものではありません。

## 【父へのラストメッセージ】

※この挨拶文は、2015年12月分からの転載です。

保護者の皆様、いつもお世話になっております。  
いよいよイベントが盛りだくさんの12月。12月のイベントといえば……  
そう、たまさんの誕生日(ダレやねん!!) \*注 山田の高校時代からの親友(^^)  
そーいえば、私の誕生日は父の日でした。こーいうのって父親って嬉しいモノなんでしょかねえ。私の父はあまり多くを語らないので、反応がつかめない…(^^)  
むかしからいつも私の聞き役でした。

(小学生の頃)

私「とおちゃん、算数のテストで10点だったんだけど、10点満点って、その下に書いておけば母ちゃんに叱られないかな？」  
父「あんな、テストは100点満点なんや。だからすぐバレルから止めておけ」  
私「あ、そうなのかー。だから、この前、30点だったとき、0をひとつ増やして300にしたら母ちゃんにすぐバレルのかー」  
父「……」

(高校生の頃)

父「おまえ、ちゃんと勉強しないと留年するぞ」  
私「大丈夫、留年したら、友達が2倍に増えるやろ？そーなったらオレ有名人やん♪」  
父「……」

父は寡黙で、普段は本当にしゃべりません。子育てもほとんど母に口出ししていません。たように思います。「ここぞ」という場面にだけ出てきて、おいしいとこだけもっていく。家族の中ではそんな都合の良い立ちまわりでした(笑)。  
100歳まで生きると豪語していた父ですが、その父が先日亡くなりました。私が病院に駆けつけたときには、すでに帰らぬ人でした。  
さすがに泣きました。大のおとながみともなく声を上げて。  
父がいなくなった寂しさ以上に、父に何もしてやれなかった自分が不甲斐なくて…。落ち込みました。身近な家族にすら何もしてやれない人間が、他人をしあわせにすることなんてできるのだろうか、と。

でも父はこんなどうしようもない息子でも、いつも信頼してくれていました。

私「オレ教育者になってこの国の教育の在り方を正したい」  
父「おまえならできるよ」

私「オレ将来、自分の学校を作りたい！」  
父「おまえはなんでもやれるよ」

私「オレ誰かの下で仕事するとかムリ。独立して京都でナンバーワンの塾をつくる」  
父「いつか言うと思ったよ(笑)」

どんなときも、応援してくれた…私のすることをなんでも信じてくれた…。父の大きな愛情のなかで育ってきたんだと思うと、涙があふれ出ました。この日、私は泣いて泣いて、決意しました。  
いつか、「とうちゃんが自慢したくなるような、いい男になろう」と。

父は入院する直前まで仕事をしていました。定年退職してから資格を取った老人介護のヘルパーです。フツー70歳過ぎてから自分より若い年寄りの世話をするか！？しかも腰を患っていて、歩くことさえ困難な状態で。日常生活さえままならないのに、それでも痛さをこらえて…。

最後まで必死に、自分が人のために出来ることをしようとしていたんだと思います。必死に最後まで生きた親の姿は、子どもが困難に出会った時、必ず力を与えてくれるはず。

「アルプスの少女ハイジ」のワンシーンで、ハイジがアルムじいさんにこう質問します。

「おじいちゃん。夕焼けは、なぜ、こんなに美しいの？」

アルムじいさんの答えはこうです。

「人間であろうと、何であろうと、お別れするときに一番美しいんだ。

いま、太陽がね、地球からお別れをしているから、こんなにも人の心を打つんだよ」

父との思い出はたくさんあります。今では私にとって、とびっきりの宝物です。不思議ですね。父が生きていたときは何てことなかったことが、これからは生きていくための心の支えになるんですから。

とうちゃん、

出来の悪い息子でほんとゴメンやったな。

オレは育ててもらったことへの感謝しかない。いっぱいいっぱいありがとう。

この恩は、仕事をつうじて、多くの人たちに返していくから。

とおいで見てて。

バイバイ、とうちゃん。

塾長 山田 大介